



©Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

山城知佳子『創造の発端 -アブダクション/子供-』（2015年、愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品）

山城 知佳子「創造の発端 -アブダクション/子供-」

会期：2016年9月9日（金） - 10月15日（土）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

川口隆夫 踊る人体ヌードデッサン会：9月10日（土） 14:00 - 16:30 ※要申込

トークイベント：9月10日（土） 18:00 - 19:00 ※要申込

※山城知佳子×川口隆夫×鷹野隆大

レセプションパーティ：9月10日（土） 19:00 - 20:30

2016年9月9日（金）より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、山城知佳子個展「創造の発端 - アブダクション/子供 -」を開催いたします。

山城は、これまで沖縄戦の記録と記憶の継承に始まり、在沖米軍基地によって引き起こされる沖縄が抱えてきた複雑な状況と向き合い制作を続けてきた作家です。現実とフィクションの狭間で高度な比喩によって映像化された作品は、鑑賞者に様々な解釈を呼び起こしてきました。

本展にて上映展示される『創造の発端 -アブダクション/子供-』は、ダム・タイプの元メンバーでダンサーの川口隆夫が、舞踏家の故・大野一雄の伝説的な舞台を「再現」するプロセスに山城が密着取材した映像作品です。川口が他者（大野）を自らの身体に取り込もうとする行為の記録は、ただのドキュメンタリーでは終わらず、得体の知れない剥き出しの身体となって観者の前に立ち現れます。沖縄を通じて「他者との接触、その継承」を一貫したテーマの一つとして制作してきた山城だからこそ撮影できた濃密な空間を、この機会に是非ともご覧ください。

本展では、『創造の発端 -アブダクション/子供-』の上映展示を中心に、その補助的な意味合いを持つ映像作品、また本編のスチル写真作品も展示致します。



■作家ステートメント

「肉屋の女」という作品を作り始める前、私は久米島の親類が営んでいる養鶏場を訪ねた。卵から孵った雛が食卓に上がる鶏肉になるまでの工程をすべて見れる大きな養鶏場で、なかには卵を産むために残され食肉にならずにすんだ幸運な鶏、産卵期を終え食肉になるには遅すぎる歳老いた鶏たちもいた。老いた鶏には鶏専用の餌ではなく、代わりに山盛りのゴーヤが与えられていた。絵としては異様で滑稽で面白くて、思わず吹き出してカメラを回していた。

生きている鶏がスーパーに並んでいるような見慣れた肉になるまでを撮る必要があった。すべての工程を丁寧に追いかけたが結局、9割くらいの素材が採用されなかった。それでも本編の物語が立ち上がるきっかけとして、じっくり見て撮影したいという欲求は十分に満たされた。ひんやりと、ぶるんとした、柔らかくて、皮膚をめくったら出てくるあの肉の塊を、私のからだの感触としてとらえておきたかった。

女の子が海の底からやってきた肉の塊と浜辺で遭遇するシーンがある。編集で繋いでいるとき、次のカットはあの雛の大群が来る、と無性に思った。しっとり濡れた肉が密やかに浜辺の草むらに隠れている様子は、まるで子牛か子ヤギがこの世に生まれ落ちてまだ間もないときのようなようだ。足腰がガクガクして力のいれ方がわからずまだまだ立ち上がれないときのように危うい、この世に辿りついた肉。その次のカットが、薄暗がりの養鶏場を埋め尽くす雛の大群。

物語が始まった、と思った。物語の構築に確信をもたらしたのは図らずもこの鳥のカットだった。

「創造の発端 -アブダクション/子供-」でも、何かが生まれいづる瞬間に鳥がいる。川口隆夫がデッサンをしている。動画をキャプチャした静止画を丁寧に描いてはコマを進め、スケッチブックをめくっては動画の静止画を描いている。途方もない繰り返しに見えるが、一コマ一コマが丁寧にゆっくりと進んでいる。そのうち川口が立ち上がり、からだの静止画のコマを繋ぎ、動きを探し始める。からだ膨らみ委む呼吸音、床と足裏がぶつかり擦れる音、鉛筆の引っ掻き音の間のスケッチブックをめくる音がふいに鳥の羽ばたきに聴こえた。

「あ、鳥だ。生まれた。」

理由はわからないが、二作品に渡って鳥は創造に何らかの関わりを持っているのだと感じられた。空を見上げる川口隆夫が、濡れて震えるからだを広げて羽ばたきの動きを真似る雛のように見える。

2016.8.23 山城知佳子

■踊る人体ヌードデッサン会

川口隆夫『SLOW BODY — 脳は感覚を持たない』vol.26

「今ほど人体を見つめることが必要なときはない。穴が開くほど、直視せよ！目の前の人体を見て、そこにある感覚を自分の体に直結させる試み。」

川口隆夫氏がヌードで踊り、参加者がその人体をデッサンする会です。

デッサン終了後は、描いた絵の見せあいをしながら川口氏との懇親会になります。

出演：人体/川口隆夫、音/和田翼

日時：2016年9月10日(土) 14:00-16:30(開場 13:45) *デッサン会 + 懇親会

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

参加費：2,000円(1ドリンク付)

定員：15名

※事前申込制

※画材、スケッチブックはご持参ください。

【お申し込み方法】

件名「デッサン会参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jpまでメールでお申し込みください。

*定員(15名)になり次第、受付を終了いたします。

*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

川口隆夫 (パフォーマー)

1996年から2008年まで「ダムタイプ」に参加。同時に2000年以降はソロを中心に、演劇・ダンス・映像・美術をまたぎ、舞台パフォーマンスの幅広い可能性を探求、他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも多い。2008年より「自分について語る」をテーマにしたソロパフォーマンスシリーズ『a perfect life』を展開。そのVol.6「沖縄から東京へ」で第5回恵比寿映像祭(東京都写真美術館、2013)に参加した。近作に『大野一雄について』(大野一雄フェスティバルで発表して以降、現在世界各地をツアー中)、『TOUCH OF THE OTHER - 他者の手』(2015年ロサンゼルス、2016年東京・スパイラルホール)など。

**■トークイベント**

日時：2016年9月10日(土) 18:00-19:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

山城知佳子 × 川口隆夫 × 鷹野隆大

※事前申込制、参加費：無料

鷹野隆大（写真家）

写真家。1963年福井県生まれ。2006年第31回木村伊兵衛写真賞受賞。

近年の展覧会に、2015年「愛すべき世界」（猪熊玄一郎美術館）、2014年「これからの写真」（愛知県美術館）、「2014年1月から比較的最近まで、撮影順に」（Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku）、2013年「Face Value: Portraits from The Kinsey Institute」（The Kinsey Institute Gallery）、他。

近年刊行の写真集に、『String and Coke』（青土社、2014年）、文学研究者の新城郁夫との共著『まなざしに触れる』（水声社、2014年）などがある。

【お申し込み方法】件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp までメールでお申し込みください。

*定員（20名）になり次第、受付を終了いたします。

*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

■レセプションパーティ

日時：2016年9月10日(土) 19:00-20:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

■その他

山城知佳子は、現在愛知県書各所にて開催中の「あいちトリエンナーレ2016」へ参加しております。

「あいちトリエンナーレ2016」

会期：2016年8月11日(木) - 10月23日(日)

会場：旧明治屋栄ビル(栄会場)

詳しくは→

<http://aichitriennale.jp/artist/yamashirochikako.html>**■作家プロフィール****山城 知佳子（やましろ ちかこ）**

1976年 沖縄生まれ

2005年 第1回倉敷現代アートビエンナーレ・西日本 優秀賞受賞

【主な個展】

2012-2013年	MAM プロジェクト 018:山城知佳子, 森美術館ギャラリー1 (東京)
2012年	黙認のからだ, Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
2010-2011年	コロスの唄, Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
2008年	バーチャル継承, ギャラリーラファイエット (沖縄)
2007年	Garden Talk, KANDADA (東京)
2005年	Anyway..., ギャラリーラファイエット (沖縄)
2004年	オキナワ TOURIST, 前島アートセンター (沖縄)
2002年	墓庭の女, 前島アートセンター (沖縄)

【主なグループ展】

2016年	あいちトリエンナーレ2016, 旧明治屋栄ビル (愛知)
2015-2016年	The 1st Asia Biennial/The 5th Guangzhou Triennial, Guangdong Museum of Art (広州/中国)
2015-2016	第8回アジアパシフィックトリエンナーレ, クイーンズランド・アート・ギャラリー / ギャラリー・オブ・モダン・アート (オーストラリア)
2015年	Local Prospects—海をめぐるあいだ, 三菱地所アルティアム (福岡)



2015年	East Asia Feminism: FANTasia, ソウル市立美術館(韓国)
2015年	MOMAT コレクション, 東京国立近代美術館(東京)
2015年	ヒロシマを越えて: 抑圧されたものの回帰 日本の現代写真とビデオ・アートにおける戦時の記憶, the Genia Schreiber University Gallery, Tel Aviv University (イスラエル)
2014年	スピリチュアル・ワールド 平成26年度東京都写真美術館コレクション展, 東京都写真美術館(東京)
2012-2013年	アジアをつなぐー境界を生きる女たち 1984-2012, 福岡アジア美術館(福岡)/ 沖縄県立博物館・美術館(沖縄)/ 栃木県立美術館(栃木)/ 三重県立美術館(三重)
2012年	アトラインかしわ2012"Kashiwa City Jack"-Asia Pacific Contemporary Media Arts from Daisuke Miyatsu Collection-カラ de ガナール(千葉)
2012年	Art, Performance and Activism in Contemporary Japan, PUMPHOUSE GALLERY (ロンドン, イギリス)
2011年	Invisibleness is Visibleness, 台北當代藝術館/MOCA TAIPEI (台北)
2011年	サイト・シーイング沖縄美術をめぐる旅~島嶼性と異化, 沖縄県立博物館・美術館コレクションギャラリー(沖縄)
2011年	アートフェア東京2011 関連企画 スペシャル・ビデオプログラム, Body Talks? 未知なるカラダ, SYMPOSIA 六本木 AXIS ビル B1 (東京)
2011年	Okinawa Art Action! Video & Performance, 沖縄県立博物館・美術館 ゴザZスペース(沖縄)
2011年	Body Talks? 未知なるカラダ, SYMPOSIA 六本木 AXIS ビル B1 (東京)
2010-2011年	ニュースナップショット 日本の新進作家展 Vol.9 [かがやきの瞬間], 東京都写真美術館(東京)
2010年	恵比寿映像祭「~歌をさがして~」, 東京都写真美術館(東京)
2010年	貴方を愛するるときと憎むとき, 沖縄県立博物館・美術館(沖縄)
2009年	ヒロシマアートドキュメント2009, 被服工場跡地(広島)
2009年	アトミック・サンシャイン, 沖縄県立博物館・美術館 / 佐喜真美術館(沖縄)
2008年	沖縄・プリズム1872-2008, 東京国立近代美術館(東京)
2008年	ヒロシマアートドキュメント2008, 旧日本銀行広島支店(広島)
2008年	To-Lo 東京-ロンドン アート エクスチェンジ, The Stephen Lawrence Gallery (ロンドン・イギリス)
2007年	沖縄県立美術館閉館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』, 沖縄県立博物館・美術館(沖縄)
2007年	写真0年, パレット市民ギャラリー(沖縄)
2007年	VOCA展2007, 上野の森美術館(東京)
2005年	ブラジル国際フォーラム BORDER, ポーテ・アレグロ現代美術館(ブラジル)
2005年	第1回倉敷現代アートビエンナーレ・西日本, 加計美術館(岡山)
2004年	アサヒ・アートフェスティバル参加企画-沖縄カフェ, 「かなさん」Rice+ (東京)

【主な映画祭・上映会】

2016年	青森県立美術館10周年記念アート・フィルム・エンカウンターズ, 7月30日、31日, 青森県立美術館シアター(青森)
2016年	AAS in ASIA 2016 KYOTO "HORIZONS OF HOPE" Film Screenings "islands-Across And Between", 6月26日, 同志社大学(京都)
2016年	『循環する世界-山城知佳子の芸術-』出版記念イベント, 6月4日, D&DEPARTMENT OKINAWA by OKINAWASTANDARD(沖縄)
2016年	Artists' Film Biennial: Next Year I Will Be Somewhere Else selected by artist Ming Wong, 5月29日, Institute of Contemporary Arts(ロンドン)
2016年	第30回イメージフォーラム・フェスティバル, 5月14日 - 7月18日, シアターイメージフォーラム(渋谷), 京都芸術センター(京都), 福岡市総合図書館(福岡), 愛知芸術文化センター(名古屋), 横浜美術館(横浜)
2016年	TEGAMI - Japanese Art - Tomoko Inagaki "Video evening: Melting Point", 5月11日, FRISE(ハンブルク)
2015年	第20回アートフィルム・フェスティバル, 11月29日 - 12月6日, 愛知芸術文化センター(愛知)
2015年	ヒロシマ平和映画祭2015-16『山城知佳子&奥間勝也 Artist Talk+新作上映会』, 1月27日, 広島市立大学(広島)
2014年	山城知佳子講演会~作品上映と解説~, 11月1日, U-cala(札幌)
2014年	映像作品制作10周年記念上映イベント, 10月19日, 沖縄県立博物館・美術館(沖縄)
2013年	六本木アートナイト2013『特別プログラム 山城知佳子特別上映会』, 3月23日、24日, 森美術館(東京)
2012年	アジアの女性アーティスト展『映像特集ウィーク』, 10月4日-8日, 福岡アジア美術館(福岡)
2005年	第43回岡山芸術祭岡山映画祭2005『えいがのきおく』, 岡山オリエンタル美術館(岡山)

【コレクション】

愛知芸術文化センター・愛知県美術館、沖縄県立博物館・美術館、クイーンズランド・アート・ギャラリー、首里城下町クリニック、東京都写真美術館、東京国立近代美術館、栃木県立美術館、福岡アジア美術館、森美術館、他

【本展に関するお問合せ】 ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。
 ユミコチパソシエイツ 担当: 鈴木
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail]
info@ycassociates.co.jp [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日